

GALLERY OWNER RACHEL UFFNER

レイチェル・アフナー
ギャラリー・オーナー

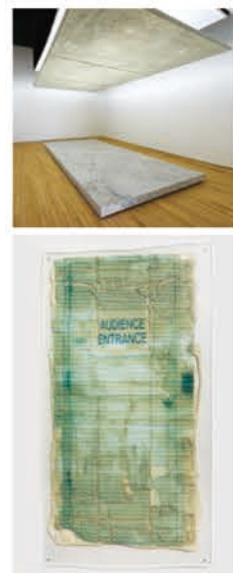
90年代、ニューヨークのアートシーンは激動の移り変わりを
見せた。ソーホーに密集していた大手のギャラリーが、同地区
の商業化と地価の高騰による圧力に弾き飛ばされるよう
に、次々と新たなエリアへの流出を余儀なくされたのだ。

その一方で、ロウアー・イースト・サイド(=LES)も、ソー
ホーの変貌による影響を顕著に受けてきたエリアだといえる。

昔ながらのニューヨークらしさを随所に残
しながらも、オルタナティブなカルチャーが
集う中心地として知られてきた場所だが、こ
こ10年ほどでその姿も一変した。

しかし着眼点をアートに置き換えれば、そ
こにはポジティブなベクトルへと進むムー
ブメントが芽生えてもいた。“よき時代”の
ソーホーやチェルシーの面影をわずかなが
らも彷彿させるLESをギャラリーの拠点と
しようとする者たちが、続々とこの地へ集
まったのだ。その動きは、“アートを見るため
にLESを訪れる”という、新たな目的をも
った人々の流れも促した。

LESのアートシーンを着実にリードして
きた画廊、レイチェル・アフナー・ギャラ
リーがオープンしたのは2008年の秋である。
「人々はLESのポテンシャルを隣りに嗅
ぎつけました。このエリアには、新たなア
ートシーンを担う力があるということに気づ
いたのです」と、オーナーのアフナーが当時
を振り返る。「次々と新しいギャラリーが誕
生していました。個展のオープニングを祝
うパーティが多く催される木曜日の夜には、
LES全体がアートのための社交場となりま
した。実にニューヨークらしいソーシャル
シーンが築かれていったのです」。アフナー
は、以前チェルシーにあったコンテンポラ
リーアートのギャラリー、ダメリオ・テラスで同画廊初のディ
レクターとして活躍した経歴がある。「ディレクターとして多
くのグループ展のキュレーションを行い、若手アーティストた
ちの発掘や彼らをプログラムに迎え入れるプロジェクトも担当
していました。その経験は、私にあることを気づかせてくれた
のです。アーティストやギャラリスト、キュレーター、コレク



“LES全体が
アートのための
社交場になり、
ニューヨークらしい
ソーシャルシーンが
築かれていった”

ター、そしてライターなど、アートに関わるすべての人々にエン
ゲージできる環境、それがまさに「自分にとって居心地のい
い場所なんだ」と。その思いは、自身のギャラリーをオープン
することへの最大のモチベーションになりましたね」

現在レイチェル・アフナー・ギャラリーの傘下には十数名の
アーティストたちが属している。「作品を通じて“自然、光、重力”

といった繊細なテーマに語りかけるサム・モ
イヤーは、ブロンズや大理石といったマテリ
アルを駆使した壮大なスケールの作品にも
取り組んでいる女性アーティストです。リ
チャード・セラのような巨匠たちとも肩を並
べ得る、圧巻のクオリティと勢いを感じます
ね。そして、長年追い続けてきたサラ・グリー
ンバーグ・ラファティ。写真というビジュ
アルイメージの領域においてのパイオニア
的な存在であり、常に新たな作品のあり方を
模索しています」

自身に潜在するアートへの興味や信念。そ
れは「祖母から受け継がれたもの」だと話す
アフナー。「幼い私の手を引いて、頻りに美
術館やギャラリーへ連れて行ってくださいま
した。よく訪れたのは、地元にあるフィラデ
ルフィア美術館。サイ・トゥオンブリーやコン
スタンティン・ブランクーシ、マルセル・デュ
シャン、そしてジャスパー・ジョーンズと
いった芸術家たちの作品群を、何度も繰り返
し見ていたものです。幼少期からアートが身
近にあったからこそ、今の私が存在している
といっても過言ではありません」

2014年、アフナーはLES内にあるサ
フォーク・ストリートにギャラリーを移転し
た。2フロア分の広々とした空間には天窓
から自然光が差し込み、訪れる者を明るく開

放的な感覚で包み込む。「ニューヨーク、特にLESで、このよ
うなギャラリースペースを展開できることはとてもラッキーな
こと！」と彼女は言う。「賃料の高騰という現実問題に悩まされ
ているギャラリストがほとんどですから。理想的な空間でア
ーティストやキュレーターたちとともに私が信じるアートを発信
できることを、心からありがたいと思わずにいられません」■

上:スペースと間隔の存在を巨大な大理石を起用して表現したサム・モイヤーの作品。下:トランスルーセント感が美しい写真作品はサラ・グリーンバーグ・ラファティによるもの。

THIS PAGE: ART WORKS: MORE WEIGHT, 2014 © SAM MOYER (TOP); UNTITLED, 2014 © SARA GREENBERG RAFFERTY (BELOW) BOTH COURTESY OF RACHEL UFFNER. INTERVIEW, TEXT AND REALIZATION: TOMOKO SAKURAI. OPPOSITE PAGE: ART WORK: "UNTITLED COLLABORATION" 2015 © ANA CARDOZO AND MAE FATTO; "BURROUGHS, EVAN S. LEVINE..." 2015 © LUCAS KNIPSCHER COURTESY OF RACHEL UFFNER



天窓から差し込む外光が
美しい、ギャラリーの
展示スペースで、アナ・
カルドゾとメイ・ファットの
コラボレーション作品を
抱きしめるアフナー。